

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型  
平成 27 年度採択企画  
実施報告書

1. 企画名

「20～40 代の女子(ママ)必見! 減災力じぶんごと化プロジェクト」

2. 提案機関名

三重県鈴鹿市

3. 提案企画の概要

防災対策上「公助」での取組みには限界があるため、「自助」「共助」の促進が大切です。25 年後の 2040 年には、南海トラフ地震の発生リスクは益々高まり、今の 20～40 代が防災や地域活動の中心的な層となります。

科学的なデータを用いた対話や新しいツールを盛り込んだ本企画で、防災の「じぶんごと」化(事前の備え、迅速な初動、情報のストック)の輪を広げ、「多様な考え方を認め合う」、将来の地域防災女性リーダーの育成を進めます。

又、防災分野での女性参画が唱えられる中、初年度は「子育てママ」を対象に実施し、毎年ターゲットを絞り、段階的に世代や性別に広がりを持たせ、事業の継続性を図りながら地域内外への広がり連携を推進します。

4. 企画の特徴

本市においては、防災・減災ツールとして、「携帯電話防災アプリ」の導入計画やウェザーニューズ社と連携した「減災プロジェクト」の普及をあわせて推進して対策を講じるとともに、個々が「じぶんごと」(誰かが助けてくれるや、焼け石に水的な発想でない)として、防災意識を高め、自発的な行動に結び付けられるよう、進めてまいります。

「防災とは楽しむこと」をきっかけとしながら、コミュニケーション等科学技術のツールを取り入れ、「子育て」視点での「防災理解」を深めていくものです。

このことは、本市だけでなく、近隣自治体や三重県全域に広めていかなければなりません。

また、災害対応だけでなく、行政と住民が責任を共有して実現していくまちづくり等に結実できるものとなります。

## 5. 総合所見

目標の成果が得られ、科学技術コミュニケーションが推進された。

市民間でコミュニケーションが行われながら、気づきや課題解決方法を自ら見だし、進めている手法は、評価できる。

「防災」と「女性（ママ）」に着眼し、地域に潜在するニーズとシーズを抽出・活用した良い取組であった。当初設定した目標はほぼ達成され、期待した成果として「防災のじぶんごと化」や地域への普及もなされたと言える。今回の成功要因や仕組みづくりの方法などを他の自治体へも展開していただきたい。今後のさらなる発展に期待したい。

## 6. 実施者からPR・感想について

東日本大震災の発生確率は、当時 99%といわれる中、本市を含め甚大な被害を及ぼす「南海トラフ（地震南海、東南海、東海地震が同時発生する想定）」の発生確率は、今後 30 年間で 70%と公表されています。

そのため、30 年後の 2045 年に向けては、今から防災・減災への関心を高めなければならず、本市では 25 年先の 2040 年を目標年とし、防災やまちづくりへ「子育て等世代」が当事者意識をもち、参画できる仕組みを目指しています。

現在、地域の防災啓発や訓練等の活動に参加する層は、60 代以上が大部分を占め、それ以下の子育て、若い世代の参加が低いことは、本市を含め社会的な課題といえます。

本企画は、今の 20～40 代の「子育て世代」の女性をターゲットに、防災への関心をもち、自ら企画し、行動に移せるよう、「防災を楽しむ、じぶんごとにする、輪を広げる」という視点に着眼しました。

2040 年時点で 40～64 才となるターゲット世代は、自分たちの経験を踏まえ、地域で迅速な活動ができ、又、その子どもたち（2040 年に 20～34 才）は親世代を見て育つことから、自然と防災・減災への意識が当たり前となり、地域で活動することに抵抗なく、循環かつ継続可能な仕組みをつくることができます。



「みんなで防災をつくろう」ワークショップ



ワークショップ

以上